

令和5年度 鳴子小学校努力点

I 主題

鳴子・スクール・イノベーション

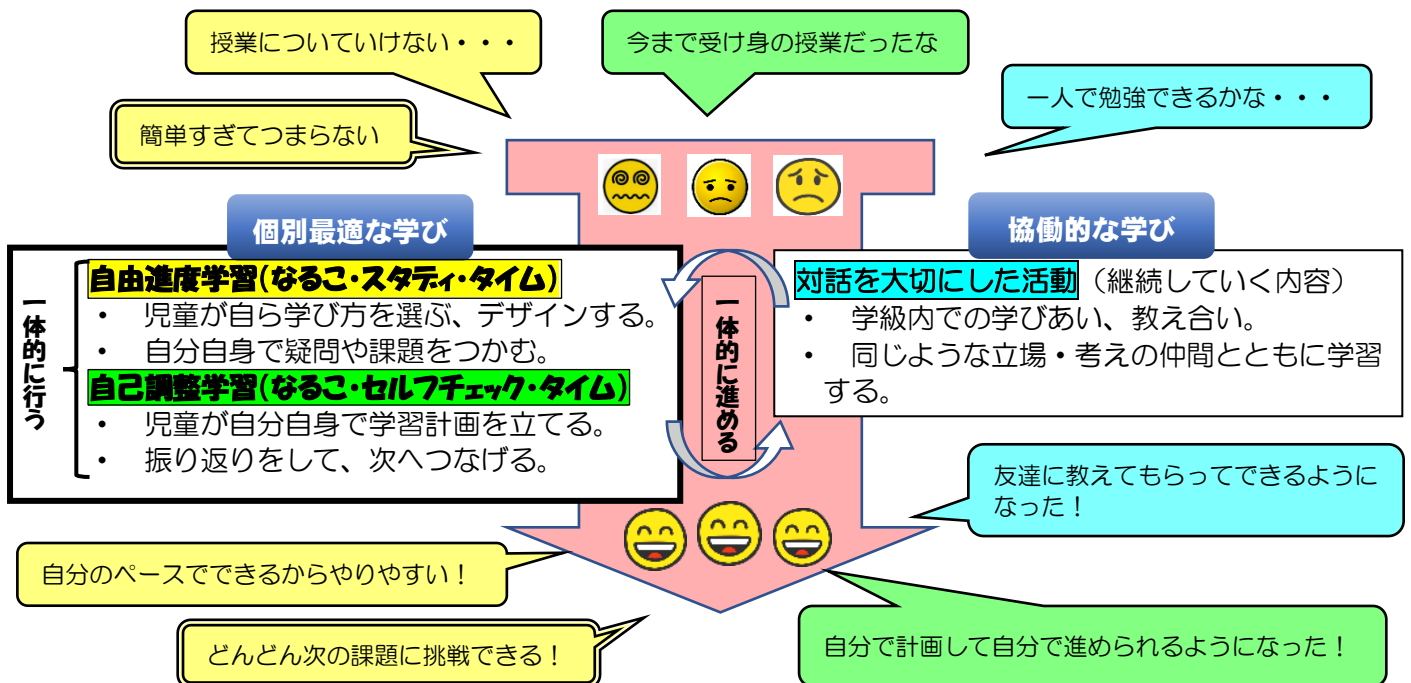
—みんなで学ぼう 自ら学ぼう できた!分かった!を実感しよう—

II 主題設定の理由

本校ではこれまで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「進んで考え、なかまと学び合おう」というテーマに基づいて実践に取り組んできた。「なかまなビジョン」や「ICTの活用」を重視し、それぞれの手立てを工夫した。そして、「協働的な学び」の実現を目指し、対話を大切にした授業づくりを進めた。

中教審答申においても、『令和の日本型学校教育』の構築では、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められる』とされている。

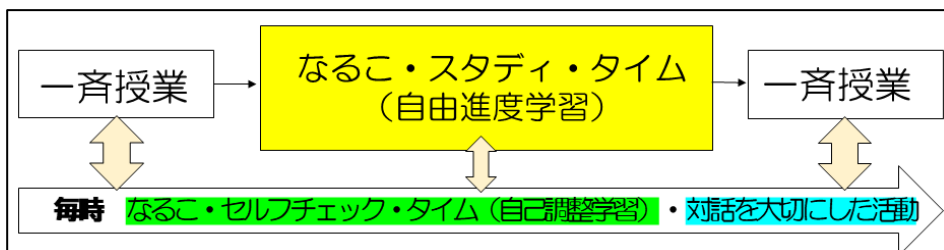
個別最適な学びは、「指導の個別化」と「学習の個性化」の考え方を中心に構成される。「指導の個別化」とは児童の視点に立って個々の課題に最適化された指導を行うことである。「学習の個性化」とは児童のそれぞれの興味関心に応じて複線的にカリキュラムを構成するものである。そこで、昨年度まで学校努力点で充実させてきた「協働的な学び」に加え、個別最適な学びの「指導の個別化」と「学習の個性化」に深く関わる「自由進度学習」と「自己調整学習」を重点に据えて実践を一体的に進めることとする。



本年度は「自由進度学習」や「自己調整学習」について、それぞれの担任が取り組みやすい方法を選び、これまでの授業のどこかに少しずつ取り入れていくことから始めていきたい。そして児童の多様な個性を最大限に生かすとともに、誰一人取り残さない教育の実現を目指していくようにする。

III 研究の方法

(1) 基本的な一単元・題材のイメージ(例)



① 一斉授業

はじめの一斉授業で基本的な学習内容をつかませたり、課題意識や問いをもたせたりする。また、自由進度学習（なるこ・スタディ・タイム）の進め方や、留意点を確認するガイダンスを行う。説明を聞いた児童が、自分で学習計画を立てる。

② なるこ・スタディ・タイム(自由進度学習)

自分の興味・関心や、学習のペース、習熟度に応じて、子どもたちが自分に必要な課題や学習活動を選択して取り組む。

③ 一斉授業

単元の終わりのまとめ。各自学習したことの成果を共有し、考えをよりよくする等の活動。

毎回必ず「振り返り」をして、進捗状況を確認したり必要があれば学習計画を調整したりするなるこ・セルフチェック・タイムの時間を取る。また、全体を通して対話を大切にした活動を行う。

(2) 基本的な一時間の流れ(例)

子ども一人一人が自分で立てた計画に沿って個別学習を行い、進捗状況を確認して、まとめ・振り返りをするという流れになる。分からないときに教え合ったり、進捗状況を確認し合ったりするなど、必要に応じて、ペアやグループでの活動を取り入れる。

なるこ・スタディ・タイム (自由進度学習の時間)	めあて(活動計画)	本時のめあてや、取り組む活動の計画を立てる。
	個別学習	各自の立てた計画に従って学習を進める。必要に応じて仲間と教え合う。
	確認タイム	本時の学習の状況を自己評価や相互評価で確認する。その際に、チェック項目があきらかになっているとよい。
なるこ・セルフチェック・タイム (自己調整学習の時間)	まとめ・振り返り	確認タイムの結果を踏まえ、本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。

☆授業に入る前に☆ ~~~自由進度の意味と価値~~~

「自由とは自分にとって必要なことを選択できること」

「自分で考えて取り組むという大切な力を身に付けるために行う学習であること」

「一人一人のできた！分かった！を大切にする学習であること」

ぜひご自身の言葉に変えながら話してもらおうと子どもたちも取り組みやすいかと思います。

(3) なるこ・セルフチェック・タイム(自己調整学習)について

個別最適な学びを進めるに当たって、学習計画と振り返りが大事である。そこで、なるこ・セルフチェック・タイムの時間に児童に取り組ませる。

① 学習計画

何時間で学習を行うのかという見通しをもたせる。単元の内容を俯瞰して学習することで自分の進み具合を客観視しながら進めることができる。

② 振り返り

振り返ることで、自分の進捗状況を把握し、必要なら調整できる。

- ・ めあてが達成できたか
 - ・ 協働できたか
 - ・ 次の学習はどうしたいか など
- の観点を入れると、取り組みやすい。